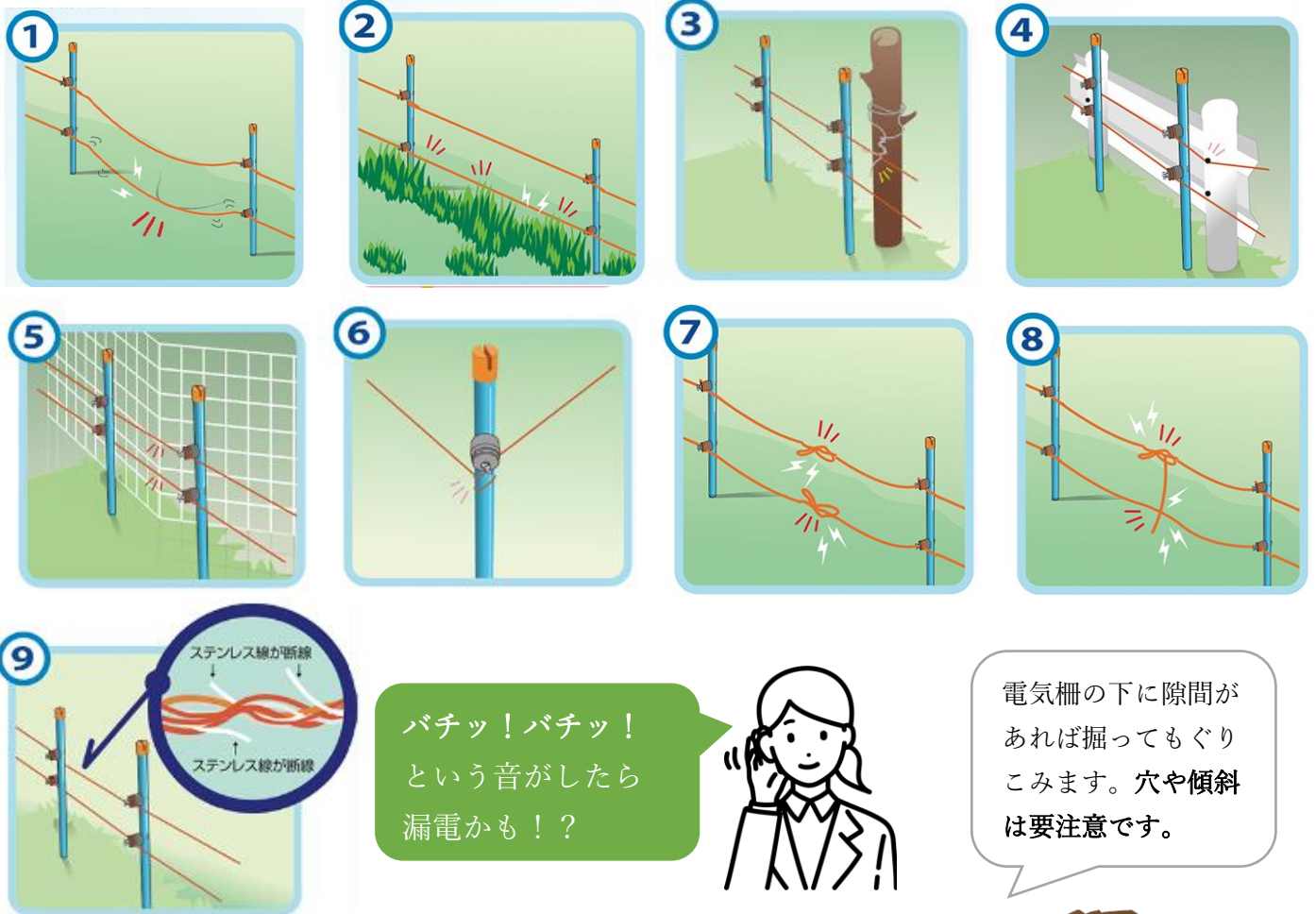


# vegeta 新聞

## 電気柵は設置後の漏電に注意！

先月の vegeta 新聞で今年の夏に最も力を入れるのは、“電気柵”を機能させるための“除草”と発表しました。以下は vegeta で使っている株式会社アポロの「電気柵の基本的設置方法」と、その後の管理で注意して欲しい点のまとめです。

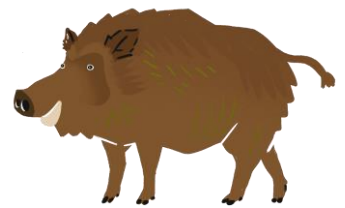
### 【電気柵見回りでて欲しいポイント】



バチッ！バチッ！  
という音がしたら  
漏電かも！？



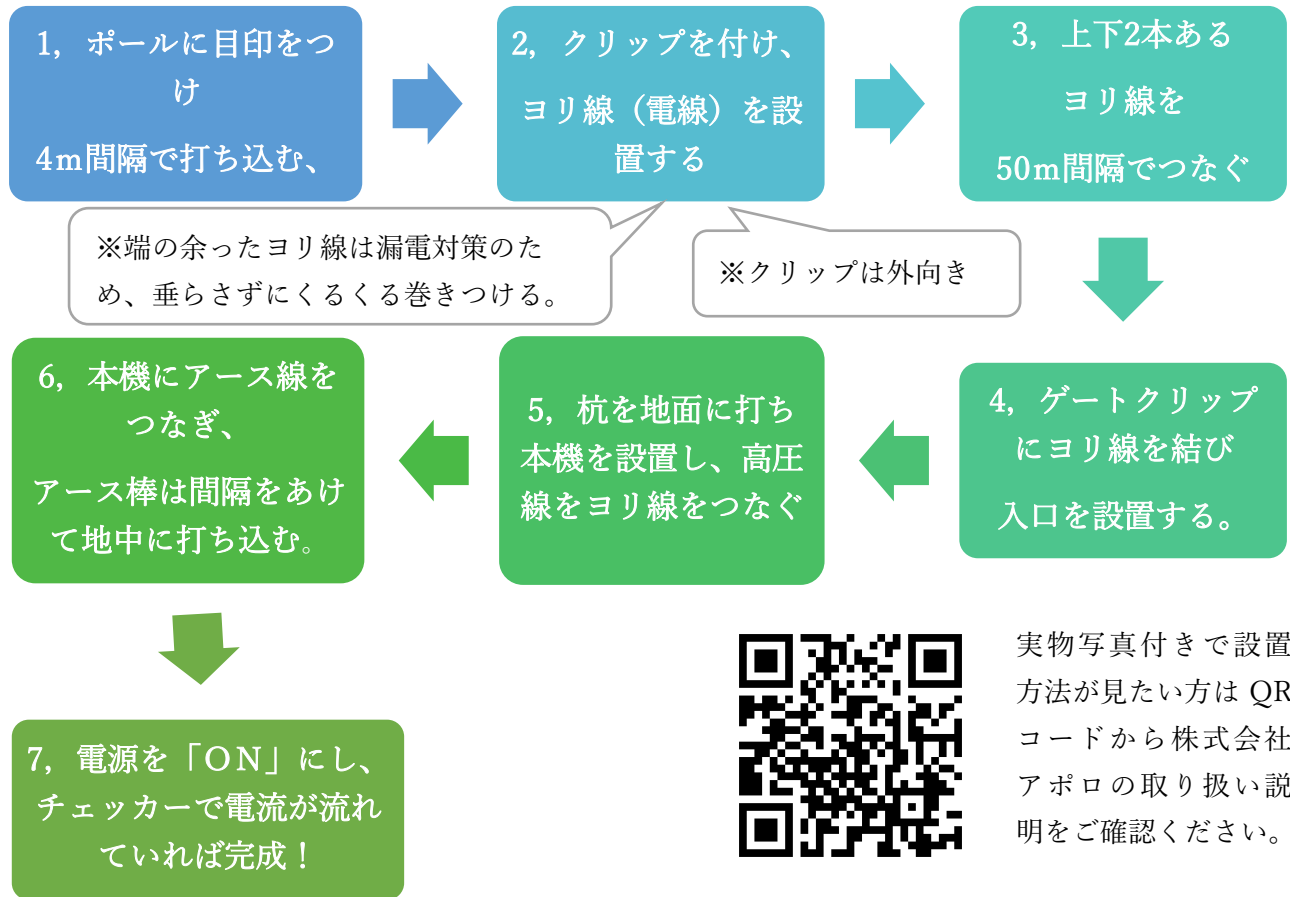
電気柵の下に隙間があれば掘ってもぐりこみます。穴や傾斜は要注意です。



出る時のことはあまり考えていません。とりあえず隙あらばは入ります。

✓	線がたるんで、地面や水たまりに接触していないか
✓	雑草や倒木に触れていないか
	ガードレールや金網など、金属製のものに触れていないか
	アスファルトから 50 cm以上離れているか ※近すぎると電圧が落ちます
	金属製のポールにヨリ線が触れていないか
	結び目や段つなぎが不完全で放電していないか
	ヨリ線が経年劣化でほつれて放電していないか

# 電気柵基本の設置方法のおさらい



実物写真付きで設置方法が見たい方はQRコードから株式会社アポロの取り扱い説明をご確認ください。

電気柵は獣に学習させるため、24時間電気が流れ続けることが大切です。また、vegetaではヨリ線を4段にして、1番下を地表から20cm(イノシシの鼻先の高さ)、2段目と3段目の間は抜けられないように間隔を少し狭く、4段目は150~160cmの高さ(鹿の飛び越え防止)で設置しています。

## 毒のある蛇は2種類。

暖かくなってきたことで毒のある虫や生き物たちも活発に行動しています。除草作業では特にマムシやハチ、ムカデなどに注意。畑の両側から真ん中に向かって作業を行うと生き物が追い詰められ攻撃してくることがあります。片側から一方向に向かって行うようにお願いします。



(左ヤマカガシ[アゴが黄色]、右マムシ[頭が三角])

## 作付計画の変更点について (作付変更は表のとおりです。)

2月に配布した作付計画からの変更点をお知らせします。また、4月から口和で作業予定でしたが、圃場整備工事の進み具合を確認したいため、まずは高野町の新圃場である高暮地区(5.34ha)の作業に入り、その後に口和、高野町の順での作業の予定です。忙しい時期になってきました。体調に気を付けて事故のないようにしましょう。

圃場	変更前	変更後
菅田1工区 10~13	デントコーン	キャベツ
菅田2工区 17~19	デントコーン	キャベツ
菅田3工区 1団地 1~10	デントコーン	キャベツ

# 除草剤は正しく使い分けて、効率よく散布を！

vegeta で使用している除草剤は、主にラウンドアップとバスタ液剤の2種類。それぞれの特徴を知り、効果的に使い分ける必要があります。

**【ラウンドアップ】** 1滴でも葉につくと根まで枯れる強力な除草剤です。ほぼすべての雑草に効果があり、3~7日後（完全には10日~2か月後）に効果が現れます。注意しないといけないことは、新開発商品の高濃度・少水量で散布ができるラウンドアップのノズルタイプでは散布方法が異なります。通常のリンドアップと希釈率が大きく違うためご注意ください。



**【バスタ液剤】** は葉茎処理除草剤というもので、散布しても雑草の根までは枯れません。しかし、この“根までは枯れない”という作用のため、田の畔など傾斜のある部分に散布しても畔が崩れないなどの利点があります。通常、2~5日後（完全には5~20日後）とラウンドアップより少し早く効果が現れます。残念ながら散布後に雨が降ってしまった場合、6時間ほど時間が空いていないと効果が薄くなるため天気予想には要注意です。（ラウンドアップは1時間空いていればOK）意外ですが、スギナなど地下茎の雑草へは根まで枯らすラウンドアップよりも、バスタの方が効果があります。スギナの多い場所はバスタを散布して下さい。



## 【ラウンドアップ】

特徴：根まで枯れる

希釈率：10a/500ml/水 50~100L

注意点：スギナには効果薄い。周りの作物に注意。

## 【ラウンドアップ（ノズル）】

特徴：根まで枯れる。高濃度でピンポイント散布。

希釈率：10a/500ml/水 5L

注意点：希釈率が通常商品と違う

## 【バスタ液剤】

特徴：葉茎が枯れる。スギナに効果あり。

希釈率：10a/1000ml/水 100~150L

注意点：散布後の雨に弱い。



（写真は左スギナ、真ん中イヌシンジャ、右イネ科の雑草）

## なぜ雑草は生えるのか？

植物は生物多様性が必要なことを理解しており、すべての植物が成長できる環境を作っているという説が面白いです。土の硬いところではセイタカアワダチソウのような背の高い（根も深い）植物が生え縦に土を耕し、刈り取るか枯れると地下茎の植物が横に土を耕し、どの植物も育ちやすい柔らかさの土を作ります。乾燥する土地にはスベリヒユのような葉を広げる草が朝露を落として土に水分を与え、スギナは酸性土壌を好んで生えますが、自身の葉は強いアルカリ性のため枯れると土は弱アルカリ性になります。なぜその雑草が生えるのか、もっと詳しくわかれば除草が楽になるヒントになるかもしれません。